

やり直しのできる社会を！

新宿連絡会NEWS

2013.3.3
VOL. 61

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒169-0075東京都新宿区高田馬場2-6-10
関ビル106号 NPO新宿気付
TEL.03-6826-7802 FAX.03-5273-6895
<http://www.tokyohomeless.com>

冬から春は

笠井和明

経験をしなければ判らないことがある。

拘束されたからこそ、自由の意味が判り、食えないからこそ、食の意味が判り、野宿したからこそ、屋根のありがたさが判る。

紙に書かれた知識や戯言に振り回されたとしても、下層の人々は結局のところ「経験則」を自らの抛り所にしながら、大事な決断をする。その決断が世間一般の常識や、「良識派」の「こうすべき」と云う説教から、たとえ外れたとしても気にする風はない。人間として全うな生き方をしている限り。

冬もそろそろ終わりである。いつもなら春の知らせが来る頃であるが、今期の冬は最初から最後まで緩む事なく寒い日々であった。

政治の方は政権が変わり、都知事も変わり、大規模な補正予算が組まれたり、生活保護費が削減されたりと大きな動きがあった冬であったが、新宿の路上はそんな動きとまるで関係なく、いつもの路上の冬のままであった。

路上生活者対策がある程度定着してしまうと、何があろうともそこから動かないと云うのが役所の強みであると同時に弱みでもある。今年は例年よりも寒そうなので、厳冬期宿泊枠を増やそうなんて云う「思いやり」は皆無。東北被災地で人手不足なので、積極的に建設技能者を送り出そうなんて云う「柔軟さ」も皆無。既に予算化されてしまうと安定飛行はするが、細やかな運行はパイロット任せで、パイロットに責任をなすり付けることはあっても、その技量はあまり問わないのが、役所仕事でもある。

乾燥した冬は火災が多い。先日も高田馬場4丁目の民家で火災事故が起こり、住民の方2人が亡くなった。この亡くなられた女性の方は、個人の「善意」のみで日雇いの人や路上生活を余儀なくされた人を自宅の部屋に安価で泊めていてくれた貴重な方でもある。もし、これが役所の施設であったり、生活保護受給者を泊めていたりしていたら、もう少し大きなニュースになっていたであろうが、役所から一線を画して個人で支援をしていると「変人」の死としてしか取り扱われない。

昨年、5月板橋区内の古い旅館でも同じような火災事故があり、経営者の男性と入居していた方2人が死亡した。この例では生活保護の人を受け入れていたことから、少しはニュースになったようだが、旅館にホームレスを滞在させていた事が問題とばかりに、批判は板橋区に向けられ、この簡易旅館経営者の支援の努力は日の目を見ることなく葬り去られた。

路上生活者対策の主軸は国や地方自治体の各種事業が中心であったとしても、その構造をそのま





ま固定しようとする部分と、日々変化する都市のニーズから、その硬直した構造だけでは先に進まないと感じる部分と、社会には二つの流れがあるように思える。

今、屋根がなく、所持金があまりなく、帰る身寄りがすぐに見つからずに路上で暮らさざるを得ない人に対しては、本人が同意すると云う前提で、あばら屋でも構わないから屋根を提供すると云うのは、ある意味当然の支援の仕方である。「シェルター」の発想そのものである。

その運営が行政であるか、民間であるかは当人達は問わないし、宿泊費を払えるか払えないかは財布の中身次第でもある。個人でやるか、団体でやるか、役所を通すか通さないか、生活保護であるかないかは、単に実務的な棲み分けでしかなく、当人達にとっては選択肢が多くなり、決して悪いことではない。

役所には「善意」が足りない（個々の職員の意味ではない）。これは構造的に仕方がない事でもある。けれど、それを理由に人々は役所を批判する。それでいて自分達が出来た「善意」を、不器用でも一生懸命実践に移している人々を寄ってたかつて裸にし、「どうせ裏があるだろう」「貧困ビジネス」だと突き放す。

これでは社会は良くはならない。

前号で、歴史から忘れられた清水精一師を紹介させてもらった。こちらは「善意」と云う言葉が陳腐になるくらいのお方であるが、連綿たる貧者の歴史の中で「公」の支援ではなく、「個」や「民」の「善意」で救われた者の方が実は多いのではないだろうか？

核家族化し、地域が崩壊し、人情や関係性がなくなったと云われている東京であるが、教會的なあれではなく、生きていくための支え合いや、善意と云うのは、社会の底辺で決して廃れた訳ではない。そう云う議論は中流階層を軸にした議論で、下層は下

層のまま、「変人」達と共に、しっかりと支え合いながら生きている。

そのようなベースの上に「公」の路上生活者対策があると云う事を、社会は自覚する時に来ているのではないだろうか。

つまりは、貧者の「公」による「囲い込み」は決してうまくはいかず、いずれ財政負担となる。「非人溜」はある一定数の内はそれなりに機能していたが、それを超えれば「野非人」となり、「囲い込み」から逃げようとする。「狩り込み」ごっこの中で、ついに「公」は折れる。

今で言えば、「生活困窮者」を見出だし（誰が困窮者なのかを曖昧にしたまま）、寄ってたかつて「支援」の押し売りをしたとしても、それは、「善意」なき「公」の、治安問題、社会問題にならないレベルのガス抜きか、自己満足にしかならず、結局は、一つの社会問題が解決したら、また次の社会問題へと次から次へと当人達は逃げ回るだけである。

何故かと言えば、よほど困らなければ「善意」なき「公」の支援を貧者は積極的に受けようとしなからであり、それは、裏返せば「民」の、そう簡単には支配されまいとする自負でもあり、文化でもある。

その昔、とあるカメラマンから「写されていると強く意識されている対象を写したとしても、それは自然な写真にはならない」旨の事を教えられたことがある。つまり、カメラと云う存在自体が邪魔なのである。同じ場所に居たととしても機材を持っているか、居ないかは決定的な違いで、理想は、自分と云う存在そのもので対象を写さなければならないのである。

これと同じ事が支援の場ではしょっちゅう起こる。追っかけては逃げられ、約束したら裏切られの繰り返しの中で、我々は学習をする。大きな機材のパッケージではなく、出来るだけ目立たない、そしてニーズに即した小さな機材、つまりは支援のブツ切りで一向に構わないと。

まあ、そんな器用な事が出来るのは「変人」の「民」や「個」だけである。どうせ予算をつけるなら、まとめて一気にやっちゃいなさいと云うのが「公」の発想である。それはそれで良い面もあるのであるが、それじゃちと乱暴だよと「善意」を發揮する人々もまた居て、そう云うバランスや相互作用、時としては相互批判の中で、どちらの働きかけも、何となく下層の人々に少しでも役立つのであれば、まあ、それが理想でもある。

なかなか、そう理想通りにはならないのであるが……。

冬の話がまた脱線してしまったが、今年の冬は西口段ボール村火災事故から15年の年でもあった。

15年も経って、未だ何も出来ていないのは恥ずかしい限りであるが、火災で底辺の人々が亡くなるのを聞くと胸が痛くなる。

1980年、孤立した仲間が引き起こした夏の炎は未だ鎮火していない。そんな風にも思えるのである。願えれば、そろそろ終わりにしたいものなのであるが……。

新宿の越年越冬とは、「こんな風に生きていこう」と仲間を示すデモンストレーションでもあり、頼るべきものは誰か？を路上の人々が集まり、共有する場でもある。

炊出しでもなく、衣類配布でもなく、音楽会でもなく、相談会でもなく、その場に来れば多くの仲間が居、その中で腹が減った仲間には炊出しがあり、衣類が汚れてしまった仲間には衣類配布があり、調子が悪い仲間には医者があり、それでは退屈してしまう人には音楽会や劇がある。それぞれが仲間のニーズに即していれば、それでよし。仲間がそれなりに健康で、厳しい冬ながらも、しっかりと歩んでいけば、それでよし。もちろん、多少は心配性なので、夜は新宿区内を歩き回り、仲間と一緒に過ごそうと呼びかけもする。

大上段に「あんたらを守る」なんて事は言えない。そんな高見に立った立場に我々は居ない。ここまで生きて来れた事を共に喜び、明日をも知れぬ世情を共に憂い、そして、どうかかこうにかでも転がって行こうと共に誓う。そんな場所でもある。

そうやって、一発屋のイベントではなく、日常の光景に新宿の越年はなっていく。それで良いのである。

そして、冬が深まれば、寒さに震え、孤立するよりも、春を待ちながら、仲間と共に、どんな事をしてでも生きていこうとする。ここには多くの仲間が居、そして仲間と共に歩もうとする「変人」も居るし、また、ここに居ても良いと思われるような新宿の「民」の暖かさも時にはある。

一時期は都内全域に拡散した路上生活者も、都がメンツをかけて実施した地域生活移行支援事業(2004年～2007年)が終了し、その後、都市公園などでの新規流入防止策が徹底された結果、新規の路上生活者の居場所は限定される事となり、主要ターミナル駅を中心とするバブル崩壊後のホームレス問題(この当時は都立公園などでのテント生活者は

少数派であった)の姿に戻って来た。

公園と云う良く判る居場所は昼間の休息程度の位置に過ぎなくなり、寝場所は駅周辺など、一般の人にとっては、把握しづらい場所へと変わっていった。

更に繁華街ともなれば、若年失業者、半失業者が漂流の場所と定め、新しい(決して新しくはないのであるが)階層として認知され始めた。そして、こちらも把握しづらい生活スタイルを確立し始めている。

街が変われば、仲間の姿も変わる。それが良いか、悪いかではなく、必然的に、そして必死に変わっていく。

待っていても会えないし、無闇に街をうろついても会える訳でもない。

社会問題と云うのは簡単であるが、その対象はそうやって移ろい、「公」がたとえ対策を取ったとしても、一部の人しか捕捉できない。

下層とは常にそう云う所であり、おそらくは変わることはないであろう。

それを承知で「支援」をしている人々は「変人」になり、それを知らずに拳を振り回す人々は「良識派」になる。只、それだけの違いである。

それで空しくならないのかと良く人に言われるが、決してそんなことはない。我々は何を誇ることも、何も創ることもしなかったより下層に近い庶民の集まりであり、路上の仲間は身近な隣人でしか過ぎない。

我々の20年にも及ぶ「経験則」とはそう云うものであり、それ以上でも、それ以下でもない。

結果としてどうなるか何てのは誰にも判らないし、判ろうとも思わないのであるが、こんな連絡会を支えて下さる仲間や全国の心ある人々に、ひたすら感謝、感謝である。

(了)



越年のパトロールは12/28から1/3まで、12/31を除く6日間で行った。1日に三方面をめどに、参加者を割り振った。範囲は新宿駅周辺と高田馬場を主にした。ほかに中央公園の南に接する渋谷区の参宮橋・初台、同じ新宿圏の神宮外苑、やや離れている新橋・銀座を回った。日程を知らせ、相手の体調を気づかい、相談に乗るなどした。全般に落ち着いた雰囲気、救急車を呼ぶような緊迫した場面はなかった。

ここ数年で珍しく、雨模様が二度あった。雨の日は都庁舎1階の開放部に100を超す人が集まる。晴れだと歩道わきに10人前後が寝るのみで、西口コースの途中のため数をまとめて記す。今回は晴雨の差が著しく、別に枠を設けた。表中12/30の項にある通り、雨天時は都庁下が増え、最寄りの中央公園が減る。両者間で移動が起き、通年の現象として05年5月の例がつとに指摘されている(連絡会医療班編『96-06報告集』)。今回の集計では雨の都庁下、晴れの中央公園を併せて平均を求めた。晴れの都庁下は、従来通り西口の一部に含めた。

期間中もう一つの特徴として、時間を遅めに配した。普段は1次19:30、2次22:30出発を、1次20:00か21:00、2次23:00に変えた。地下広場を例にとると、22:30と23:00では遅いほど人が来て、三～五割増しになる。似た傾向が晴れの中央公園16:00と20:00にいえる。

各区域の人数は前回並みか微減であった。高田馬場は注意したい。前回、周囲に60人近くが寝泊まりする戸山公園の施設が、工事中で使いにくかった。今回は元に戻った上の結果で、見た目より減少幅が大きい。一昨年との比較で、半分以下というのが実情だろう。

記録に盛らなかつたが、新橋・銀座では数名と出会った。まとまった支援の手が入っておらず、接点を作るのに工夫がいると感じた。集中して取り組めるこの時期は、いつもと違う試みをするのに適している。いざとなれば連れだって中央公園へ戻ればよく、ある意味で動きやすい。今回も西口地下でそういう対応があった。

仲間の道のりに近づききっかけを探して、今年も新宿の街を歩きます。

越年パトロール記録

日付	天気	時間	コース*										計
			東	西	北	都	中	高	4	地	参	神	
12/28 (金)	小雨	20:00~	29	20		90						10	
		22:30~						10	51				
12/29 (土)	晴れ	16:00~					81						
		21:00~	27		28								
12/30 (日)	雨	20:00~		27	15	155	37						29
		23:00~							31	75			
1/1(火)	晴れ	21:00~	35	34	29								
1/2(水)	晴れ	20:00~					141	34					
		23:00~							31	67			
1/3(木)	晴れ	21:00~	53	46									
平均			36	31	24	116	34	24	64	(10)	(29)	329	
昨年度平均			46	34	25		117	46	38	66		(35)	372
一昨年度平均			61	29	35		125	88	34	49			421

*=新宿駅東口/西口/北/都庁下/中央公園/高田馬場/4号街路/地下広場/参宮橋・初台/神宮外苑

単位=人(カッコ内は参考値、計に含めず)

越年概数調査

	1/2,1/3,1:00~		計
地下広場	97		
戸山公園	38		
柏木公園	5		
御苑広場	6		
江戸川橋	22		
4号街路	69		
都庁下	12		
靖国通り	10		
職安通り	10		
甲州街道	9		
東口	13		
西口	小田急	16	27
	ハルク	4	
	京王	5	
	バス停	2	
南口	3		
西武新宿	4		
中央公園			113
神宮外苑			29
計	325	142	467

概数調査は1/2(水)・1/3(木)の両日未明、新宿駅周辺と圏内の数か所で行った。一部に早い時間の記録を用いた。公園(広場)・主要路・駅前の区分を念頭に、位置を測る手がかりにした。実際はわき道にそれていても、大通りで数えた場合がある。公園や広場と、その間を結ぶ路線に人が集まる傾向が出ている。結果は、ほぼ同じ範囲を調べた前回(474名)と変わらなかった。

一度に終えなかったため、重複の可能性がある。炊き出しや通常のパトロールなど、他のどんな指標と組み合わせれば精度が高まるか、判断が難しい。夜ごと動く人は多くないとも考えられる。同じ場所に寝るほうが負担は軽い。

どこを選ぶかは建物の構造・位置・天気・管理の度合いによる。一地点が複数の要素を兼ねる。たとえば靖国通りや職安通りのある部分は、幹線沿い・高架下・駅近くといった性格を持つ。江戸川橋をはじめ、各地に似た個所が見られる。ほかに個別の条件として、仲間どうしの相性・食事・職などが影響する。

2012/12/28~2013/1/3越年炊き出し実数表 新宿中央公園「水の広場」

月日	12月28日	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日	1月2日	1月3日
曜日	金	土	日	月	火	水	木
天候	雨	晴れ	雨	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
新宿昼の炊き出し実数		320	174	312	246	306	330
新宿夜の炊き出し実数	186	192	240	304	296	296	328
参考(池袋昼)		38	24	65	74	76	65
参考(池袋夜)		78	34	148	144	146	178

*池袋の炊出しと新宿の炊出しは昼夜共同時刻に実施のため重複はあり得ないので東京西部圏の実数を反映

池袋+新宿合計(昼)		358	198	377	320	382	395
池袋+新宿合計(夜)		270	274	452	440	442	506

特記事項

12/28夜、12/30昼、12/30夜は雨天のため都庁下にて実施
 東京都の年末対策はなし。厳冬期宿泊は縮小、新宿区からはこの時期6名宿泊のみ
 12/29日昼はアントニオ猪木氏による炊出し
 中央教会などのその他の支援は例年通り

	述べ人数	平均	対前年度比
新宿昼の炊き出し実数	1,688	281	-34
新宿夜の炊き出し実数	1,842	263	-41
	述べ人数	平均	対前年度比
池袋+新宿合計(昼)	2,030	338	-88
池袋+新宿合計(夜)	2,384	397	-101

活動期間：

2012年12月29日から2013年1月4日まで7日間

活動場所：新宿中央公園水の広場（12月29日-1月4日）

活動内容：医療テントを設置、医療職ボランティアによる昼夜2交代・24時間対応

血圧測定、創処置、医療・歯科相談、市販薬提供、衰弱・要介護者保護、福祉生活相談集中医療相談（12/30、1/3）、鍼灸あんま相談（12/30）、生保申請手続き付添（福祉行動 1/4）

生活自立し介護・処置不要な人は、新宿連絡会シェルターに緊急一時宿泊（1/4まで）

ボランティア34名：医師10、歯科医師1、看護職13、薬剤師1、鍼灸師5、一般4

<医療テント活動> () 内は11-12越年期の数

医療相談記録作成者数 41(40) 男性 39(38) 女性 2(1)

平均年齢：

52.7歳(58.2歳)、最低 23歳(28歳)、最高 70歳(84歳)

年齢分布：

20代 2(1)、30代 5(2)、40代 7(6)、50代 10(12)、60代 15(10)、70代 2(6)、80代 0(1)20-39歳 17.1%(7.9%)、40-64歳 68.3%(57.9%)、65歳以上 14.6%(34.2%)

医療テント宿泊保護者数 7(11)

延べ数 21(24) (人X日数) 男性 6、女性 1

テント保護後緊急一時宿泊者数 2(5)

延べ数 8(21) (人X日数)

<福祉行動結果>

年齢 性別 症状：対応 越年後経過

テント保護 緊急一時宿泊

- 41 男 下血。1/1緊急受診。1/4福祉行動。1/18再受診予約。
- 70 男 心窩部痛・労作時呼吸困難。1/4福祉行動。1/7受診、「結核」入院
- 23 男 全身衰弱・統合失調症疑い。1/4他区福祉へ。1/8受診、入院予定。12/30-1/4
- 61 男 腓骨骨折疑い。1/4福祉行動。施設入所。1/4受診。12/31-1/4
- 53 男 下腿蜂窩織炎。1/4福祉行動。施設入所。1/4受診。12/31-1/4
- 45 男 手関節痛。1/4福祉行動。施設入所。受診。12/31-1/4
- 50 男 下腿骨髄炎疑い。毎日創処置。1/4福祉行動。施設入所。1/7受診。
- 53 男 椎間板ヘルニア。1/4福祉行動。施設入所。後日受診。
- 61 男 関節リウマチ疑い。1/4福祉行動。施設入所。1/4受診。
- 55 男 高血圧治療中断。1/4福祉行動。施設



入所。1/4受診。

- 35 男 足指骨折。1/4福祉行動。施設入所。
1/4受診。
- 62 男 下肢麻痺・腰痛。1/4福祉行動、他区で
福祉受給中と判明、他区福祉へ
- 51 男 糖尿病治療中断。1/4福祉行動。カプ
セルホテル緊急宿泊。1/7から仕事する。

福祉行動後施設入所 8 (10)

緊急宿泊 2
 新宿区以外の福祉へ 2 (1)
 生活保護受給者の相談 3(4)
 精神疾患・アルコール依存の主訴及び既往のある受診
 者 9

相談時症状：相談記録作成者41名

2013年2月12日

感冒12、腰痛・坐骨神経障害6、高血圧5、関節
 痛5、生活相談4、胃腸炎4、統合失調症疑い2、
 糖尿病2、外傷2、骨折2、耳鳴り2、アルコール
 依存2 など

<越年活動結果>

越年期緊急受診：1件(1)：十二指腸潰瘍

紹介状枚数 17(20)

福祉行動後医療機関受診通院治療 10(10)：

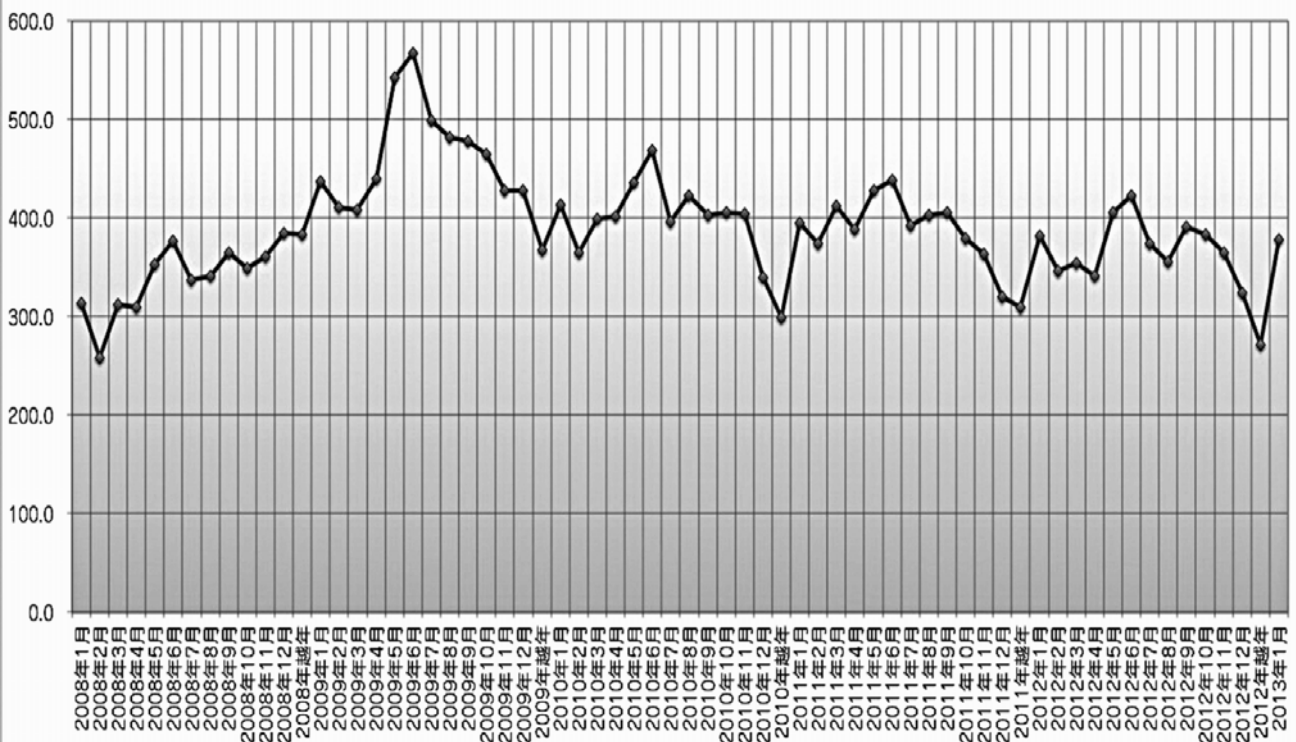
骨折2、関節炎2、坐骨神経障害2、骨髄炎1、蜂窩
 織炎1、高血圧1、結核治療中断1

福祉行動後医療機関入院治療 2 (1)：

結核性胸膜炎1、統合失調症1



2008-2013 炊出し実数推移



新宿連絡会 会計報告

2012年度10-1月報告

今期も多くのご支援を頂き、越年越冬活動を支えて頂きました。どうもありがとうございます。

頂いたお金は連絡会の運営費や仲間のために全て使い切っております。現在多少赤字となっておりますが、必要性のある活動が続きますので、今後ともご支援宜しくお願い致します。

勘定科目	金額	勘定科目	金額
I 計上収入の部		消耗品費	28,938
1 寄付金収入	3,225,247	事務用品費	0
		衛生管理費	3,200
計上収入合計	3,225,247	支払手数料	7,732
		事務所分担金	460,000
II 計上支出の部		修繕費	0
1 事業費		雑費	0
炊き出し事業	810,359	計上支出合計	3,509,643
越年越冬事業	1,667,677	計上収支差額	△284,396
夏まつり事業	0	前期収支差額	△245,195
花見事業	0	次期繰越金	△529,591
池袋支援事業	200,000		
その他活動事業	0		
2 管理費			
旅費交通費	0		
通信費	331,737		

衣類、物品の寄付 ありがとうございました。 春もの男性用衣類などは3月から募集再開です。

第19次新宿越年越冬への衣類等の寄付誠にありがとうございました。おかげさまで多くの仲間がこの冬は防寒着、毛布類には困る事なく、また全国からの支えがある事が実感でき、感謝感激です（毛布の配布は今年は2月17日まで継続でき、また、パトロール時のホカロン配布は3月10日まで定期配布予定です。もちろん、冬物衣類配布は毎週配布出来ています）。

今後の衣類の寄付は下着類、靴下類、Tシャツなど上着、ズボン、春秋ものの薄手の上着類を中心に3月1日より募集を再開します。また、引き続き、アメニティグッズ、缶詰など食料品、テレホンカード（使用可能なもの）、はがき、切手類なども募集をしていきます。

今後とも路上の仲間がこの街で生き、そしてこの街から羽ばたくための様々なご支援を宜しくお願い致します。

不明な点はどうぞ、お電話、メール等でお気軽にお問い合わせ下さい。

ボランティア募集中!

- 新宿炊出し（準備・片付け）
毎週日曜 午後6時より7時半
ところ 新宿中央公園「水の広場」
- 医療相談会
第2日曜 午後5時半より7時
ところ 新宿中央公園「水の広場」
- 鍼灸相談会
第2日曜 午前10時より
ところ 高田馬場事務所
- パトロール（夜回り）
新宿駅周辺 毎日曜 午後7時半～
戸山公園 毎水曜 午後6時～

●活動カンパ 振込は、郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

オンラインカンパは、<http://www.giveone.net/>「Give One（ギブワン）」（登録NPOを探すをクリックし新宿連絡会を見つけて下さい。）からだとジャパンネット銀行、クレジットカードで寄付が可能です。

●郵便物及びカンパ物品送付先は以下の住所にお願いします●

★郵便物及び衣類、医薬品、米などのカンパ物品は

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-6-10関ビル106号 新宿連絡会 宛て

（平日9時～5時で受取が可能です）をお願いします。